

## 樽前山の火山活動解説資料（令和8年2月）

札幌管区気象台  
地域火山監視・警報センター

火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。  
 なお、山頂溶岩ドーム周辺では高温の状態が続いていますので、突発的な火山ガス等の噴出に注意してください。  
 噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

## ○活動概況

- ・噴気など表面現象の状況（図1、図2-①～⑥）  
 監視カメラによる観測では、各火口や噴気孔群の噴気の高さは火口縁上100m以下で経過しました。噴気の高さは2021年秋頃にやや増大し、現在もその状態が継続しています。
- ・地震及び微動の発生状況（図2-⑦～⑨、図3）  
 火山性地震は少なく経過し、震源は主に山頂溶岩ドーム直下の深さ0km付近及び山体西側の深さ2km付近に分布しました。  
 火山性微動は観測されていません。
- ・地殻変動の状況（図4）  
 GNSS連続観測では、火山活動の高まりを示すような変化は認められません。



図1 樽前山 南側から見た山頂部の状況（別々川監視カメラによる）

この火山活動解説資料は、気象庁のホームページでも閲覧することができます。

[https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土交通省北海道開発局、国土地理院、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、国立研究開発法人産業技術総合研究所、北海道及び地方独立行政法人北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』、『数値地図 25000（行政界・海岸線）』及び『基盤地図情報』を使用しています。

次回の火山活動解説資料（令和8年3月分）は令和8年4月8日に発表する予定です。

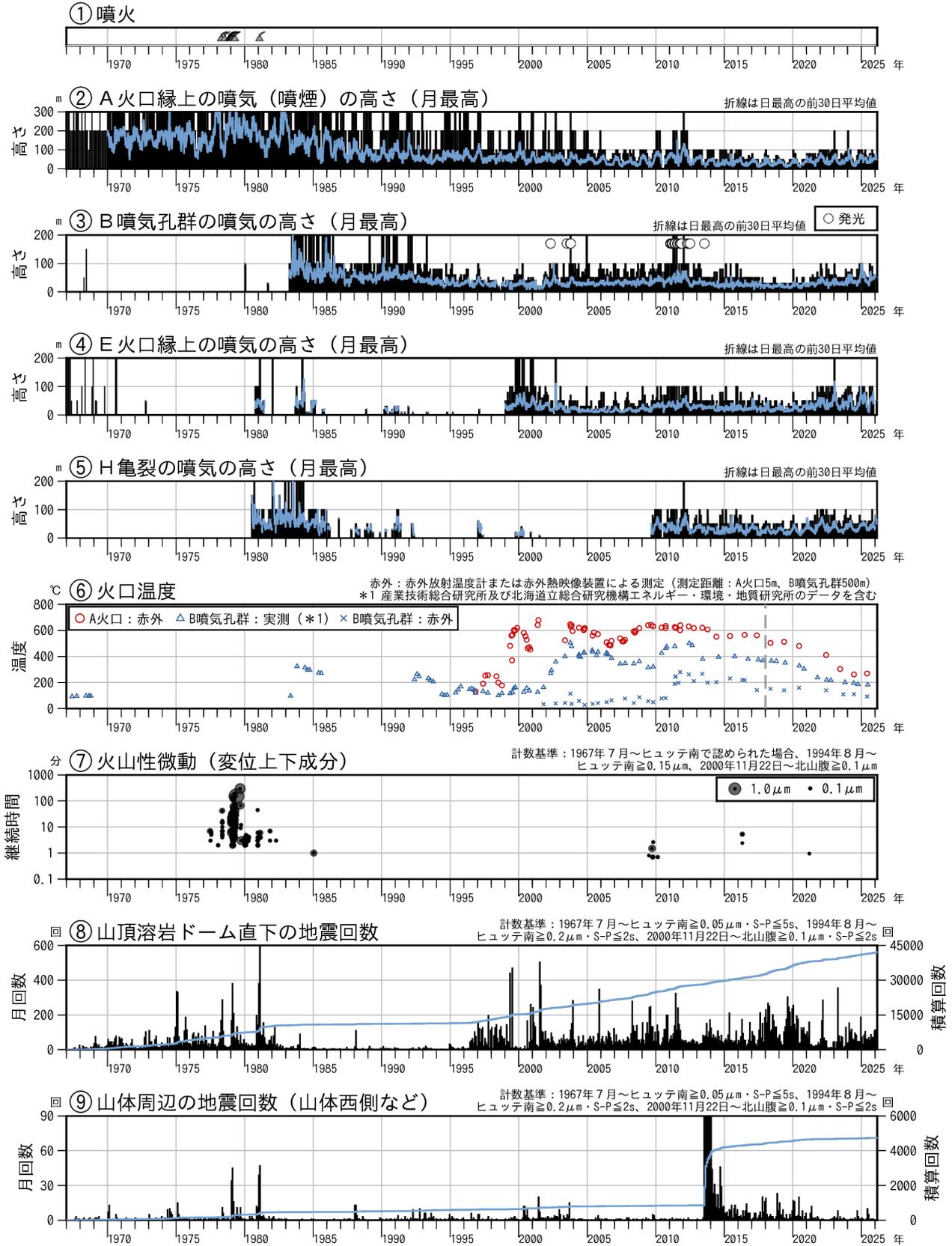


図2 樽前山 火山活動経過図（1967年1月～2026年2月）

⑥：2018年（破線）前後では測定機器の変更により、測定温度に差が生じている可能性があります。

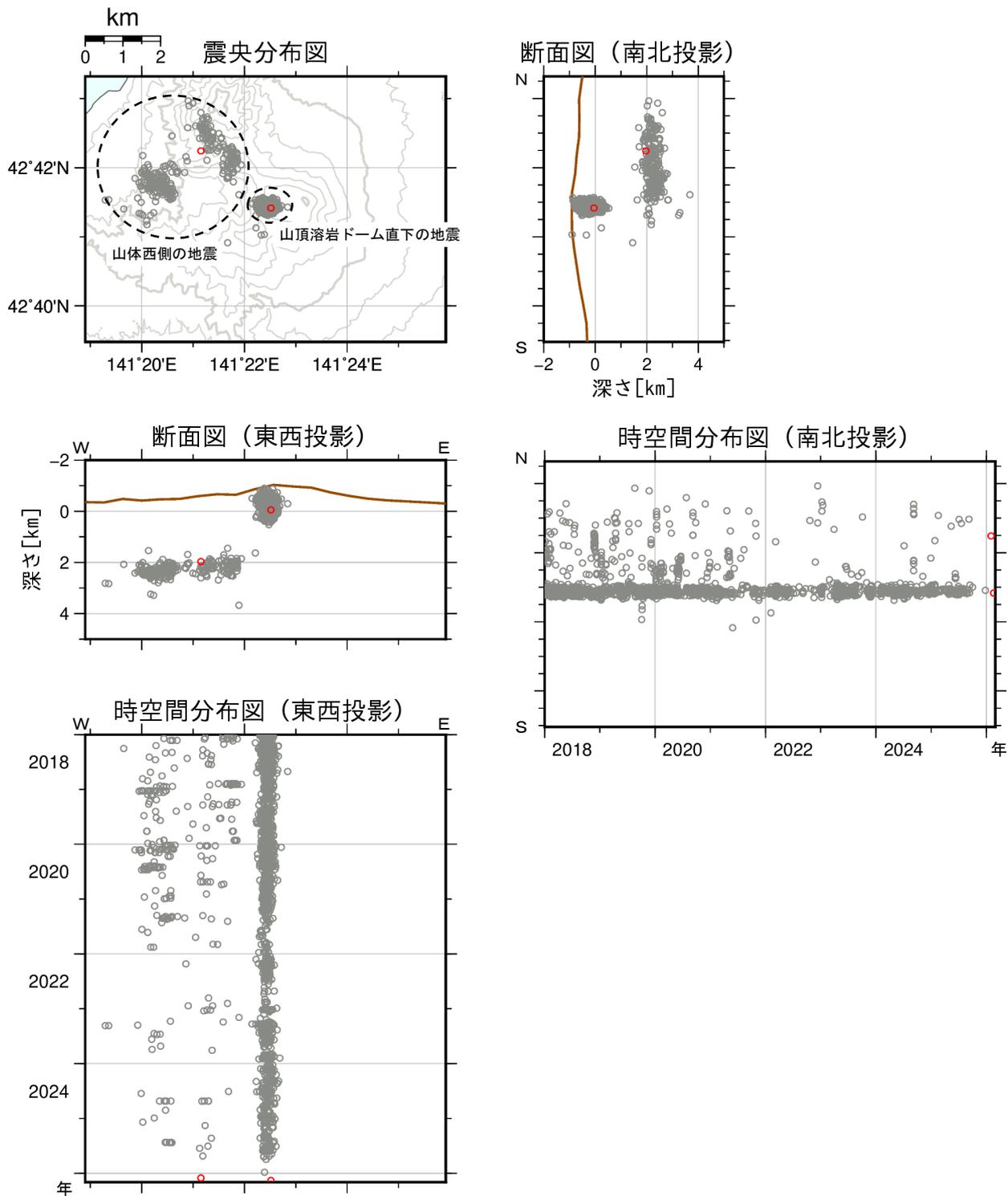


図3 樽前山 火山性地震の震源分布（2018年1月～2026年2月）  
 ○：2018年1月～2026年1月の震源 ○：2026年2月の震源  
 2025年10月頃以降、一部観測点の欠測のため、震源の求まった数が減少しています。

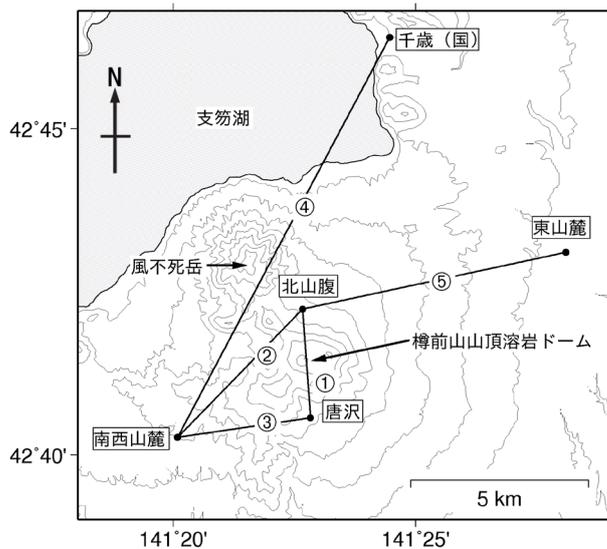
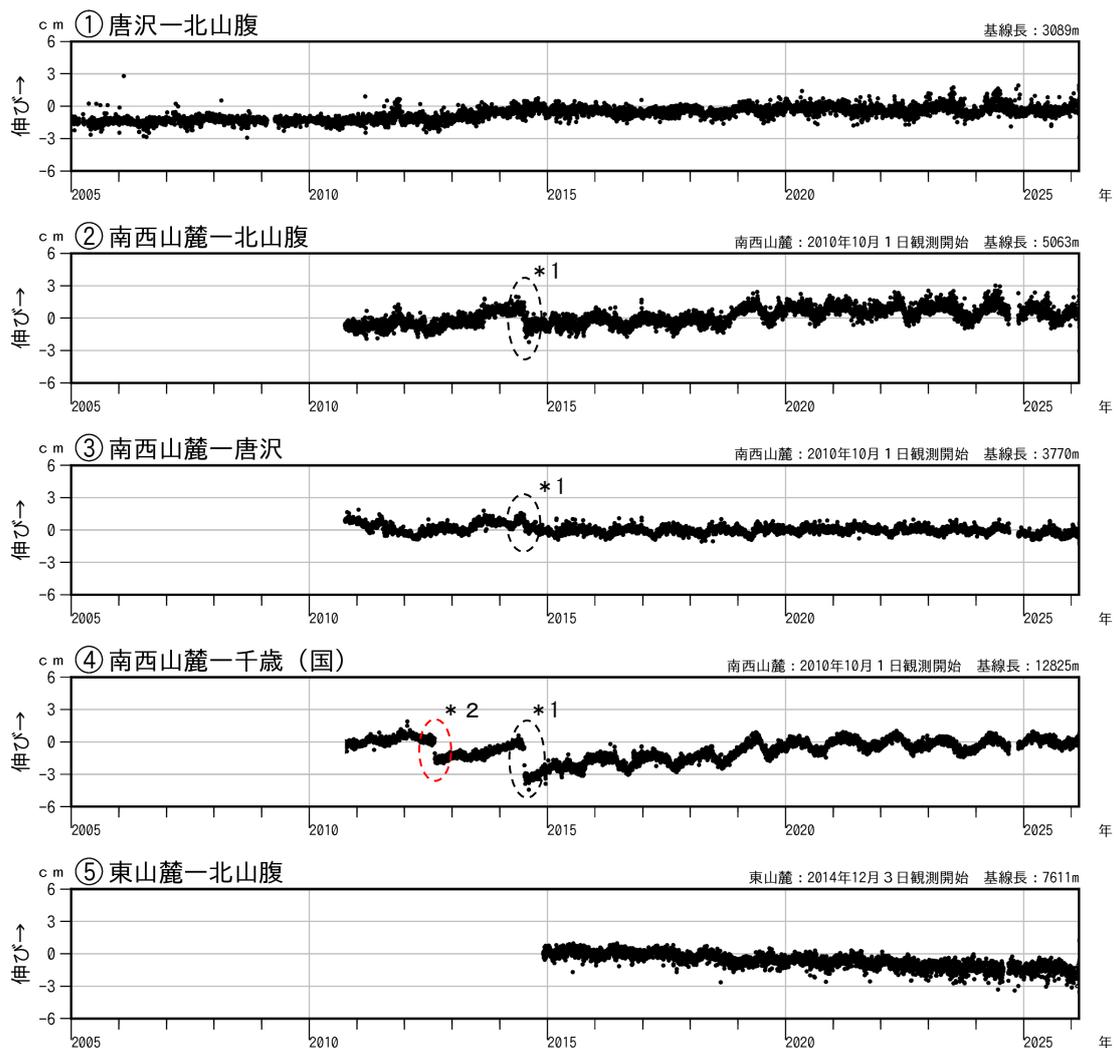


図4 樽前山 GNSS連続観測による基線長変化（2005年1月～2026年2月）及び観測点配置図  
 グラフ①～⑤は観測点配置図の基線①～⑤に対応しています。  
 グラフ中の空白部分は欠測を示しています。  
 \* 1：黒破線内の変動は2014年7月8日に発生した胆振地方中東部の地震によるものです。  
 \* 2：赤破線内の変動は機器変更によるものです。

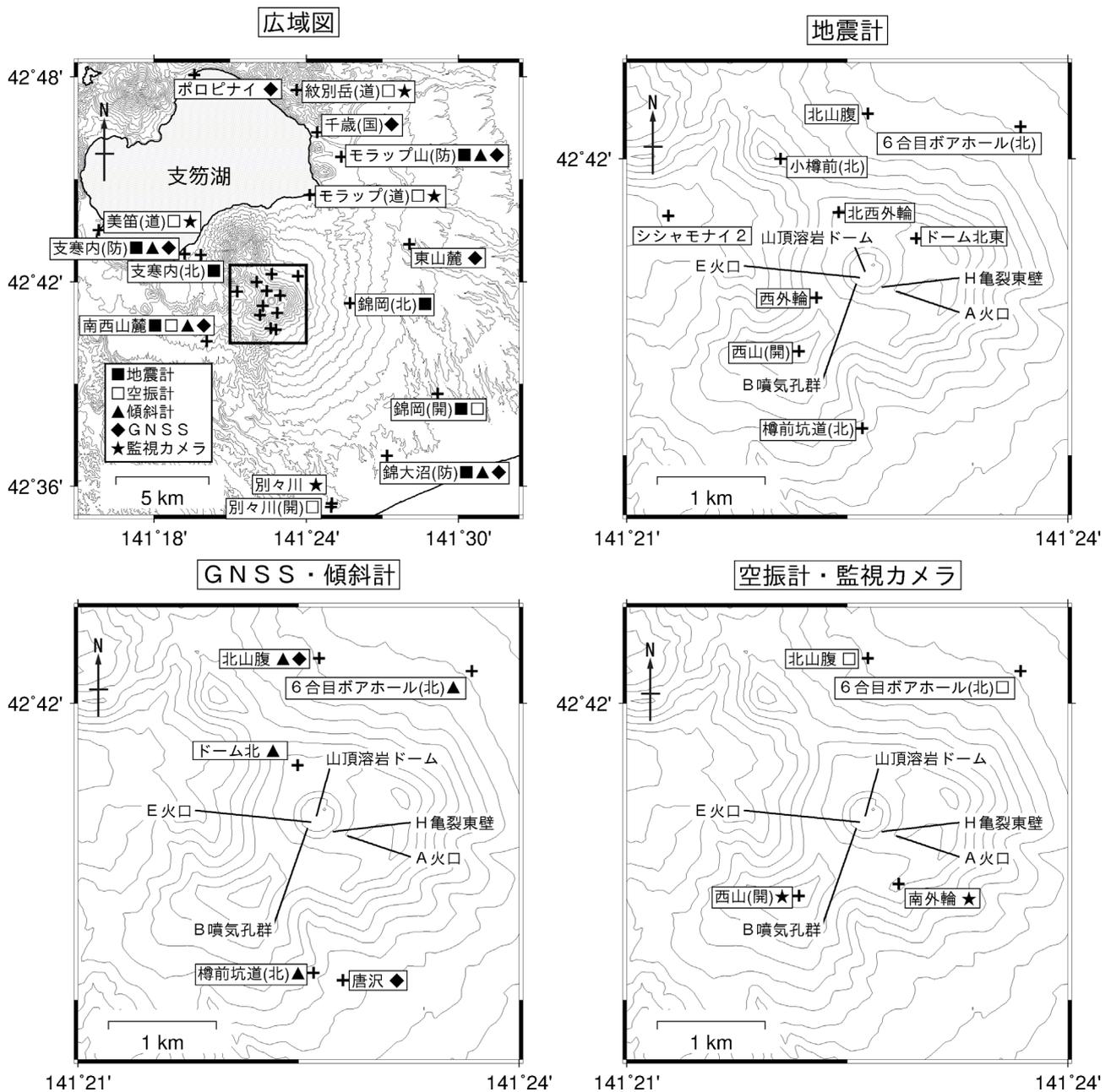


図5 樽前山 観測点配置図

各機器の配置図は、広域図内の太枠線で囲まれた領域を拡大したものです。

+印は観測点の位置を示します。

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

- (開)：国土交通省北海道開発局
- (国)：国土地理院
- (北)：北海道大学
- (防)：国立研究開発法人防災科学技術研究所
- (道)：北海道